

令和7年度プロジェクト研究報告書

プロジェクト研究 1

『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を目指した教育実践の在り方』

1. 担当者：小島道生 丹治敬之

2. 令和7年度の取組状況

・ 構成員

迎 友果、藤田大輔、櫛谷孝徳、狩野友作、小松俊介、鮫島康太、深宮美宇、高津 梓、菅野佳江、河野文子

・ 委員会、会合の開催日と内容

2025 年 12 月 26 日に本プロジェクトの研究会議をオンラインにて実施した。調査研究の結果報告と今後の研究活動について意見交換が行われた。

・ 実施事項

2025 年 7 月～8 月にかけて教育局の丹治・小島が調査研究を実施した。

3. 令和7年度において得られた成果

インクルーシブ教育支援システムの構築および「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に資する基礎的知見を得ることを目的として、2025 年 7 月～8 月にかけて教育局の丹治が中心となって自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒に対する教員の態度に関する調査研究に取り組んだ。通常学級および特別支援学校に勤務する現職教員を対象に、ASD に対する「感情」、「認知」、「行動」の側面から態度を調査した。その結果、指導経験が必ずしも一律により肯定的な態度と結びつくわけではないことなどが明らかになった。これらの知見は、インクルーシブ教育システムの構築や、個に応じた支援と学級全体での協働的な学びを両立させる教育実践の在り方の検討に資するものであり、本研究成果は学会誌に投稿中である。

4. 令和8年に向けた課題

今年度は、教育局の教員が中心となって取り組んだ研究であったが、今後は附属学校教諭とも連携をとりつつ「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に目指した教育実践の在り方に関する調査研究及び実践研究を積み重ねていく必要がある。